

2019年度 地域連携活動報告書

連携先名称：霧島ガストロノミー推進協議会

協定締結日：2018/10/23

活動状況：継続中

連携先窓口：鹿児島県霧島市役所 霧島 PR 課 今吉直樹 氏

活動資金：寄付金

担当教員（所属）：大浦裕二(食料環境経済学科)、上岡美保(国際食農科学科)、
江口文陽(森林総合科学科)

活動体制（単位）：大学

関連教員（所属）：大浦裕二(食料環境経済学科)、上岡美保(国際食農科学科)、
木村李花子(学術情報課程)、江口文陽(森林総合科学科)
黒澤弥悦(非常勤講師)

活動目的：下記事項の連携と推進を目的とする。

- (1) 地域産業資源を利活用した6次産業化と人材育成に関する事項
- (2) 環境保全・地域づくりに関する事項
- (3) 教育・文化・食資源開発などの振興に関する事項
- (4) 就職支援に関する事項
- (5) 農林水産業振興(霧島ガストロノミー)に関する事項
- (6) その他霧島市と東京農業大学が相互に必要として考える事項

活動内容・成果：東京農業大学は、霧島市の農林水産物、伝統食品および文化などの研究推進に取り組み、それらの希少価値や独自の文化特性を解明するとともに有用性などの成果を確認しています。また、霧島市は日本国内で先導的に組織したガストロノミー(食事・料理と文化の関係を考察)によって地域の伝統的な農林水産物や新規性の高い農林水産物のブランド化についても本学研究者・院生および学生が研究・事業に参画している。これらの研究を契機として霧島市の産業振興、環境保全並びに人材育成等に寄与することを目的とした連携推進を行ってきた。

特にこれまでの成果としては、本学教職員が霧島のガストロノミーを推進するためのアンバサダーに就任するとともに、霧島の食文化に係る審査会の審査員を務め地域振興のためのアドバイスなどを実施している。霧島市に所在

する市立国分中央高校からは東京農業大学へ学生が入学するとともに卒業生の市内の企業への雇用実績も構築してきている。また、東京農業大学収穫祭においては、産学連携の農産物販売のブースへ二年連続で出店し、在学生、卒業生はもとより、収穫祭の来場者および地域への霧島市の産物のPRとともに東京農業大学との連携による地域振興、地方創生に関する実績を広めることとなった。

課題・改善点：これまでは霧島市と東京農業大学との連携は、教職員の個人研究と研究室の教育・研究活動として成果を得てきましたが、さらに形ある事業展開へと繋げてゆく時期になったものと考えます。

このような背景の中、我が国最大の農学系総合大学である東京農業大学との連携を推進することで、霧島市の「霧島ガストロノミー推進」に専門的知見や助言、産物の付加価値が与えられ、農林水産物・加工食品の保蔵や産業振興の取り組みが活性化されることを期待して今後も取り組みたいと考えます。

(写真は霧島茶などの特産物を世田谷キャンパスでの収穫祭で販売した様子)

